

## 大阪市夢洲地区下水道基本構想 策定に関する調査研究

2000 No.11

調査研究団体：大阪市下水道局  
(財)下水道新技術推進機構

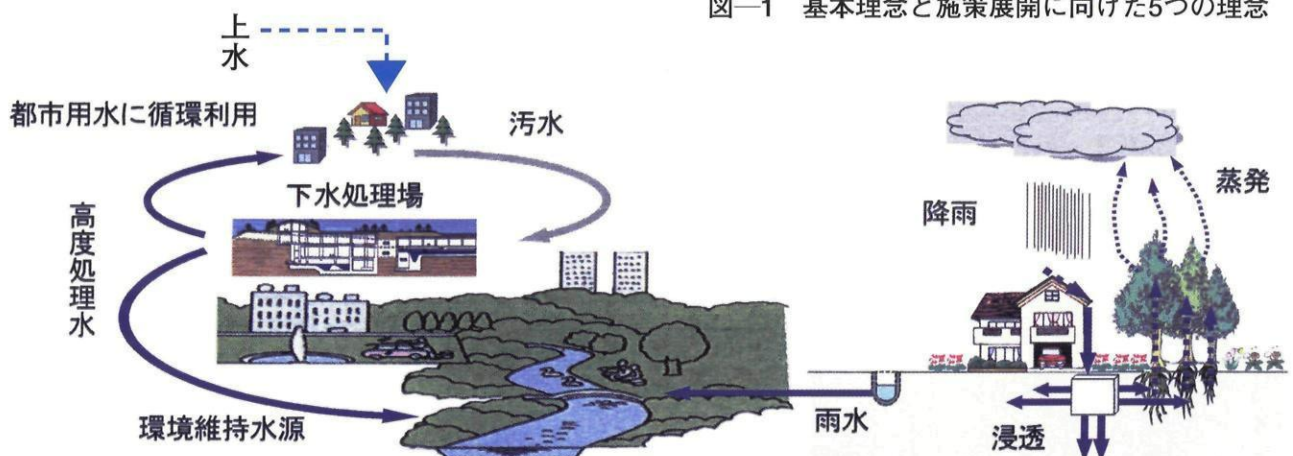
### 研究内容

大阪湾の臨海部北港地区に位置する人工島の夢洲では、2025年を目標に「環境共生型のまちづくり」を基本的コンセプトとした新たなまちづくり計画が進められています。このような中、下水道計画には、まちづくりと一体となり多面的に貢献していくことが求められています。本調査研究では、夢洲のまちづくりから下水道に期待される役割を踏まえ、夢洲下水道の基本理念と施策展開の方向性を明らかにするため提言を作成しました。

### 研究結果

#### ①下水道計画の諸元（2001年3月現在）

- ・計画目標年次：2025年
- ・計画面積：1,258.0 ha  
(夢洲380.0 ha、咲洲653.0 ha、舞洲225.0 ha)
- ・計画水量：100,000m<sup>3</sup>/日(日最大)

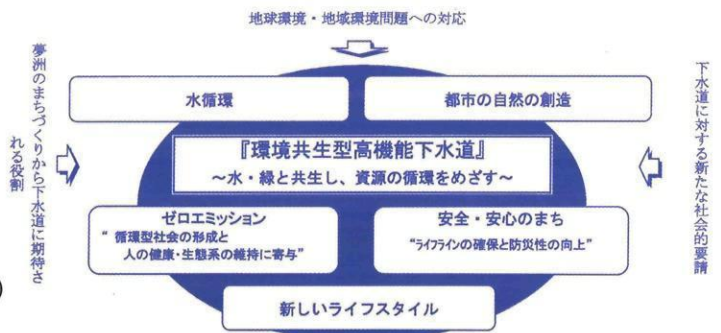


図—2 “健全な水環境と良好な水環境の創造”のイメージ

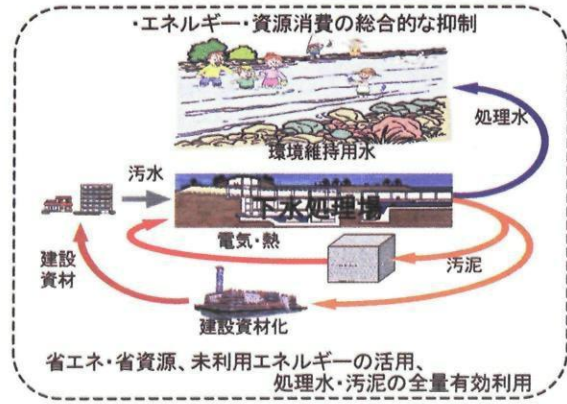
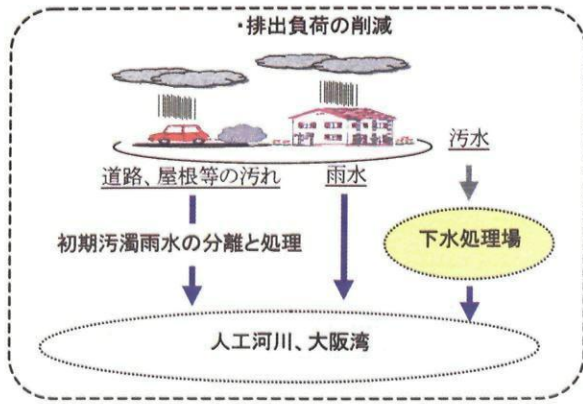
#### ②夢洲下水道の基本的な方向性と基本理念

都市自然との共生および資源の循環により「環境共生」を下水道計画に積極的に取り入れ、基本理念を『環境共生型高機能下水道』～水・緑と共生し、資源の循環をめざす～としました。この基本理念を具体化する施策展開に向けた5つの理念は次の通りです。(図—1)

- ・水循環：健全な水循環の形成と人に潤いと安らぎをもたらす良好な水環境の創造 (図—2)
- ・ゼロエミッション：持続可能な循環型社会の形成と人の健康、生態系の維持への寄与 (図—3)



図—1 基本理念と施策展開に向けた5つの理念



- ・都市の自然の創造：水と緑と生態系が連続する自然環境を軸とした都市の骨格形成に貢献（図-4）
- ・安全、安心のまち：ライフラインの確保と防災性の向上に貢献
- ・新しいライフスタイル：住民の環境活動への支援（図-5）

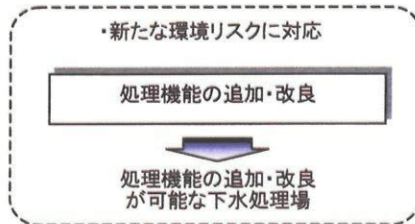


図-3 下水道における“ゼロエミッション”のイメージ

③施策の実現に向けて

施策の実現に向けては、次の視点が重要となります。

- ・他部局との連携
- ・都市の構造および質の環境共生型への転換
- ・新技術の開発
- ・住民参加
- ・環境投資の重要性のアピール
- ・洲全体の効率的な管理システムの構築

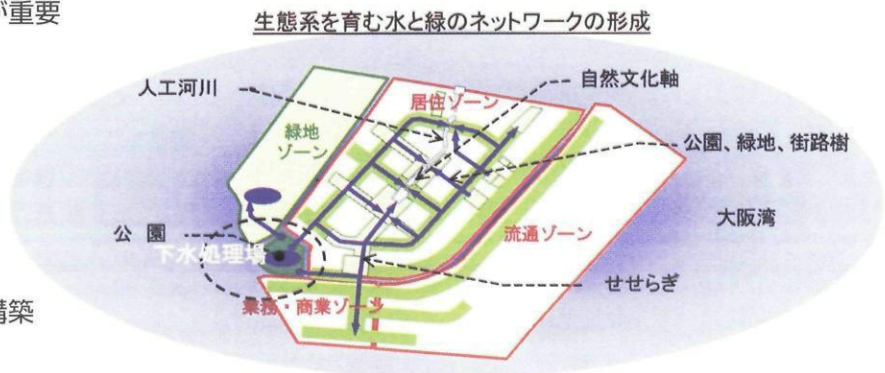


図-4 水循環を基調とした“都市の自然の創造”のイメージ

・住民と一体となった運用管理の場の提供

下水道モニター、水質モニター

・住民が主体となった環境活動・環境学習の場の提供

下水処理場のエコセンター化

ビオトップ

・住民と一体となった夢洲まちづくりに貢献

施策に対する住民の意見・参画の取り入れ

・夢洲の環境に関する情報公開・発信の場の提供

情報ネットワークを利用した環境情報の共有化

図-5 場の提供と住民主体の環境活動支援による“新しいライフスタイル”のイメージ

今後の課題

今後は理念を具体化するため、施設の計画や設計を行っていく必要があるため、理念の実現のために下水道担当部局と多くの部局との協力体制を築いていく必要があります。



財団法人 下水道新技術推進機構

Japan Institute of Wastewater Engineering Technology